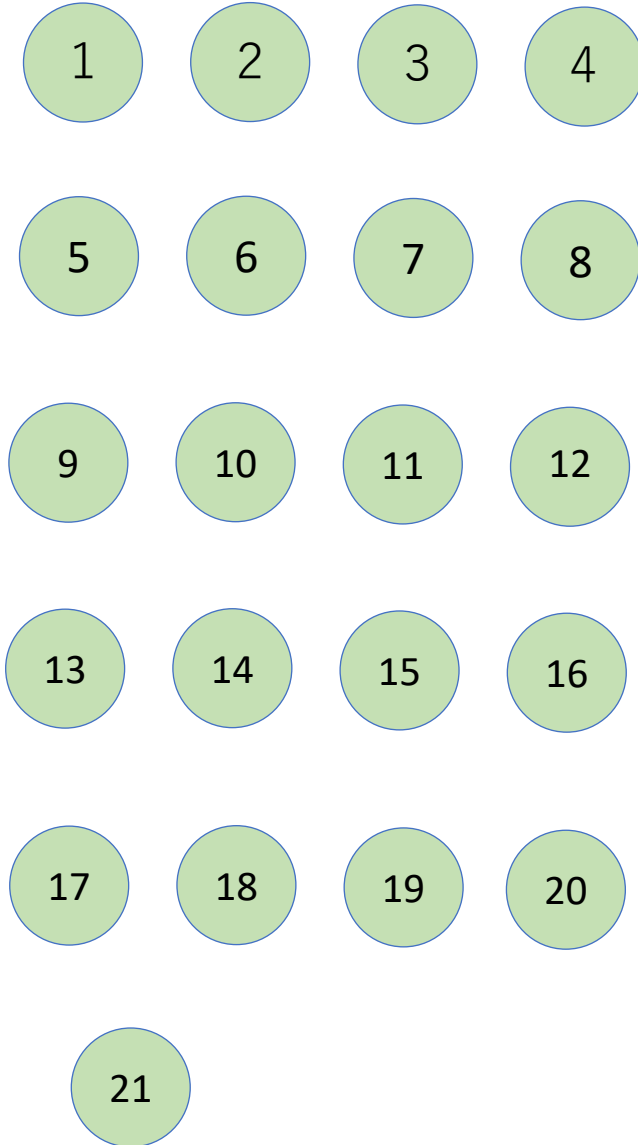


3人組 × 21組 = 63
座り方: くじの番号の
グループに着席を

3人組のどこでもOK。



LAH.H107

コミュニケーション論B

3Q月・木1/2限 (8:50-10:30)

第8回： ファシスキル2「グループサイズ」
「問い」

2022.11.7

リベラルアーツ研究教育院(ILA) 教授

中野民夫

tamio.nakano@me.com

特別参加：高尾隆先生

ティーチングアシスタント (TA)：柳川総太郎

授業計画前半

詳細は様子を見ながら検討

1. 10/3 オリエン、グループワーク体験
2. 10/6 WS入門：聴くことと話すこと
*10/10休み
3. 10/13 相互インタビュー
4. 10/17 ワールドカフェ：全員参加の対話
5. 10/20 ファシリテーション(F)入門
6. 10/24 高尾先生特別授業：インプロ
7. 10/27 F基礎スキル①：場づくり
*10/31、11/3休み

授業計画後半

詳細は様子を見ながら検討

8. 11/7 Fスキル②：グループサイズ、問い
9. 11/10 自分が創りファシリテートしたい場
10. 11/14 ファシリテーター実習に向けて準備
11. 11/17 ファシリテーター実習①
12. 11/21 ファシリテーター実習②
13. 11/24 ファシリテーター実習③
- 14/ 11/28 全体ふりかえり：最終レポートを元に

フィードバックシートから

- 机の配置については、スクール型に座った瞬間に眠たくなってしまった。スクール型では、自分より後ろの人の顔は見え、自分より前の人には背中しか見えないので、自分だけしか授業に参加していない感じがするので、寝てしまうのだと思う。
- 今日の発見は、グループの作る形での変化だった。四角と丸の違いが大きくて、四角は、ホスト側の辺が存在するため、その側とその他の辺の1対1の会話になりやすいが、円はホストはいてもその側が生まれにくいので、自然に会話してる感じがした。
- グループサイズや形式によって感じ方がここまで変わるとは思っていなかった。全てを総じて言うのであれば、人は、「他者の見え方」というのを無意識で非常に感じているのだと思った。最初の形式であっても、よくよく考えてみれば、前に座っている人が授業を聞いているのを見ているのであって、それはすごく重要な事で、オンラインとは違うのだなと思った。他者が平等に見えるほど、雰囲気の良い場所になると思った。
- さまざまな場づくりがある中で、目的によって使い分けるのがいいなと思いました。会議などのまじめな話し合いをするときは長方形、雑談をするときはサークル型、大人数のときは扇型、など目的に合わせた場づくりを学ぶことができました。それぞれの良い点を考えて、自分のファシリテーションに活かしたいと思いました。

今日の流れ

8:50-10:30

- 8:50 オリエン、
- 9:00 ファシリテーション基礎スキル2
 - ①場づくり補足：オリエンテーション
 - ②グループサイズ
 - ③問い
- 10:15 ふりかえり
- 10:25 フィードバックシート

チェックイン

- どうしてた？（近況）、前回の場づくりで印象的だったこと
- 進め方
 - 司会進行役（ファシリテーター）を決める
 - やってみたい人、むしろ苦手な人、〇〇の人、
 - その人がチェックインの場をホールドし進行
 - 場を開く：にこやかに挨拶
 - 1) お題：何について話すかを確認。
 - 2) 誰から、何分くらい話すか目処を示す
 - 3) タイムキープしながら対話を促す。

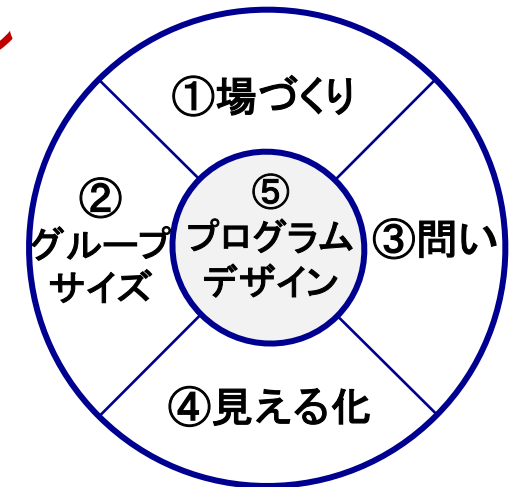
資料アップしたけど読んでくれたかな？

「参加型の場を創るファシリテーション:学び合いの現場 から」

• 計測と制御 第60巻 第6号 2021年6月号

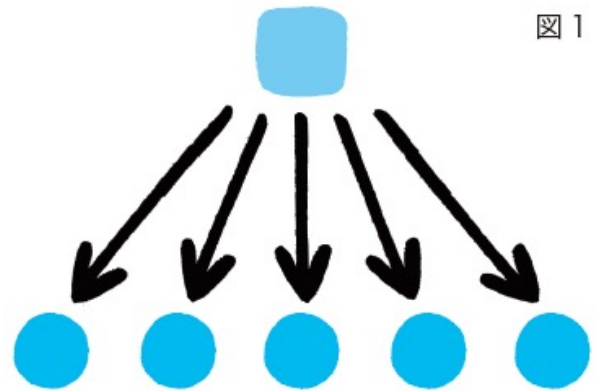
- 東工大の三宅義博先生が「コミュニケーションの場」に関する特集の担当をされた縁で執筆。
- 1. ワークショップとファシリテーション
- 2. 参加型授業の実際:東工大立志プロジェクト
- **3. ファシリテーションの基礎スキル**
 - 3.1 場づくり
 - 3.2 グループサイズ
 - 3.3 問い
 - 3.4 見える化(可視化)
 - 3.5 プログラムデザイン
- 4. 持続可能な社会へのファシリテーション

ファシリテーション基礎スキル

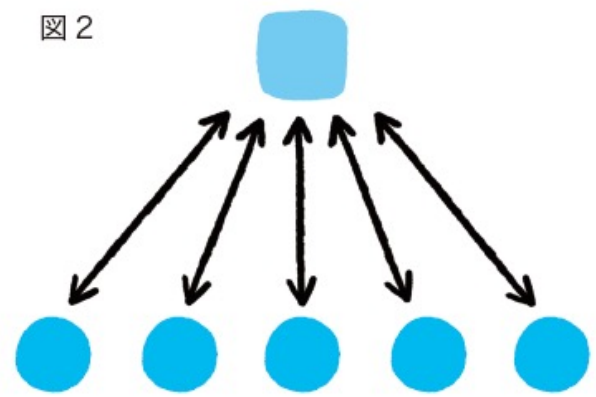


要は上下でなく、横の相互作用を育みたい

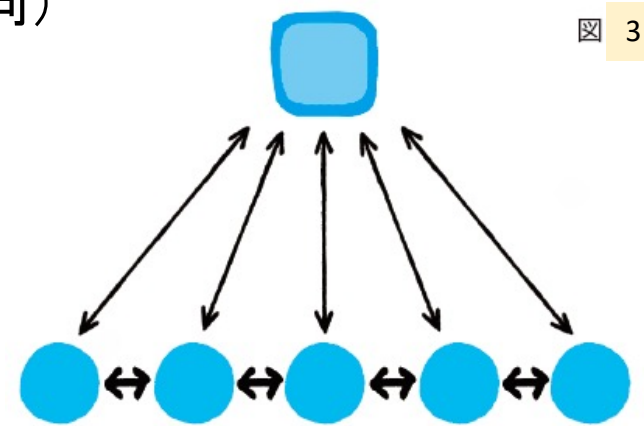
1. 上意下達(従来型の教育)



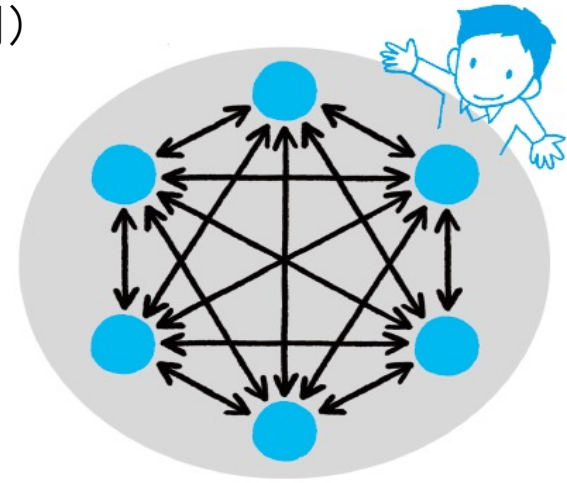
2. 質疑応答(縦の双方向)



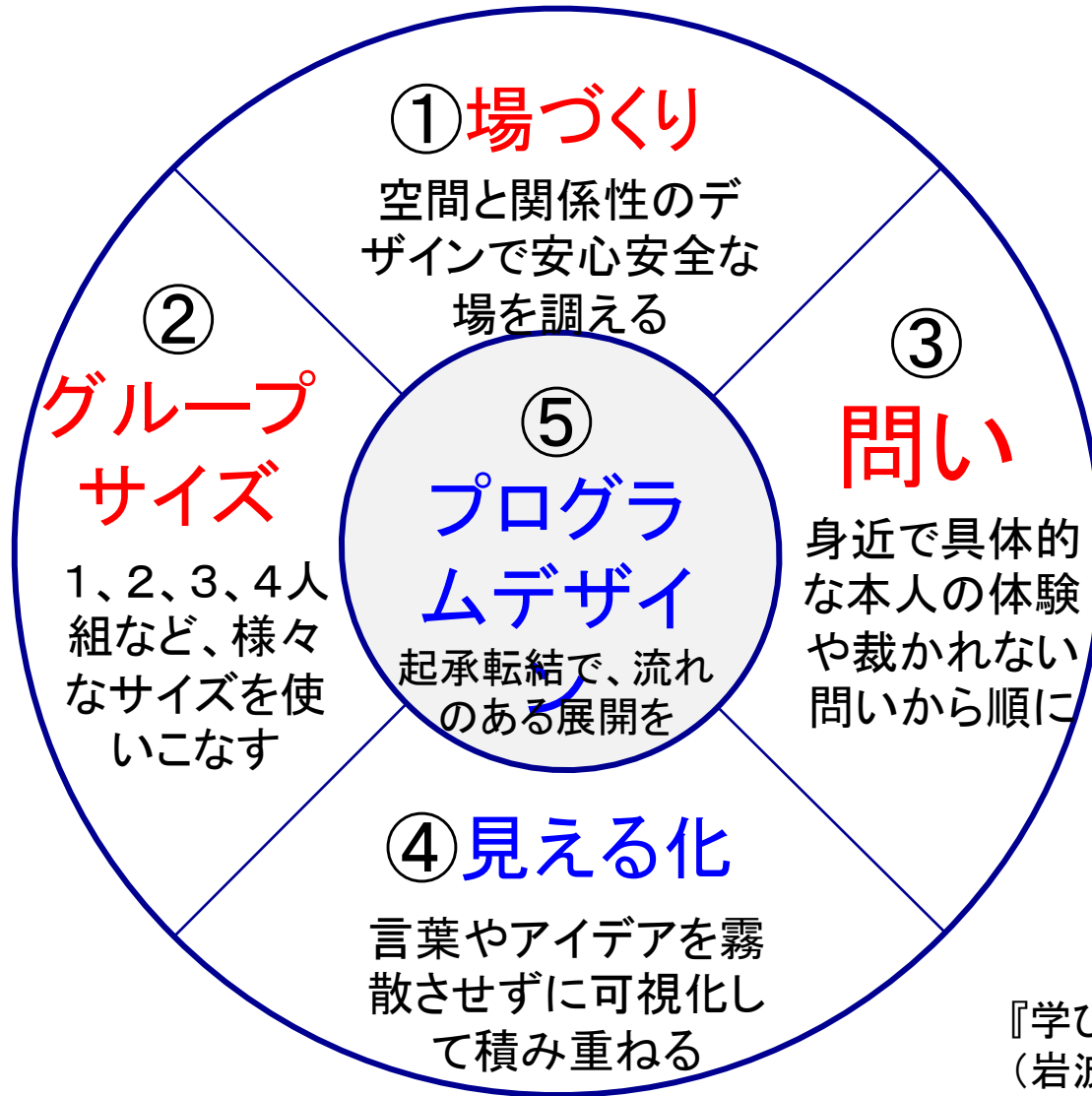
3. 小グループ対話(横の双方向)



4. ワークショップ(マルチの相互作用)



学び合う場をつくる ファシリテーション5つの基礎スキル



『学びあう場のつくり方』
(岩波書店)より

1の技：場づくり

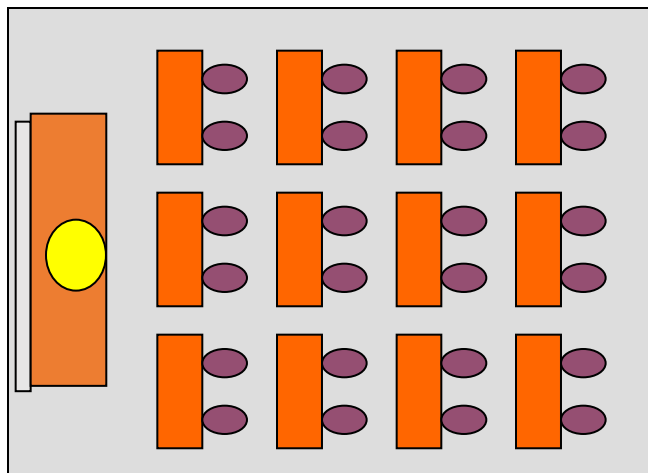
空間のデザイン+関係性のデザイン

- 「場」って何？
 - Space? Place? Field?
- 場 = 空間（物理的） + 関係性（心理的）
 - 人（生物）は同じ空間にいるだけで、影響しあっている。
- 「空間」の物理的デザイン → 時には、オンラインの使い方
 - 場所の選択、机やイスの並べ方 → zoomの使い方等
- 「関係性」の心理的デザイン
 - 人と人の関係が雰囲気をつくる。どう導入して行くか。
- さらに「時間」の影響も大
 - 常に限りある。ゆったり、だけどしっかりタイムキープ

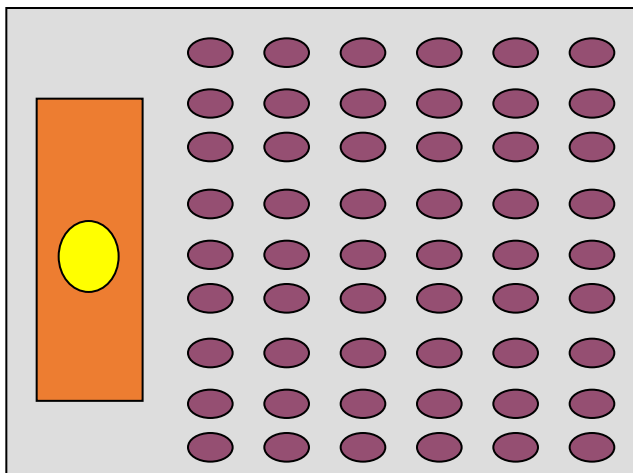
【椅子と机の様々なレイアウト】

それぞれの特長を熟知し、場面に応じてくりだそう！

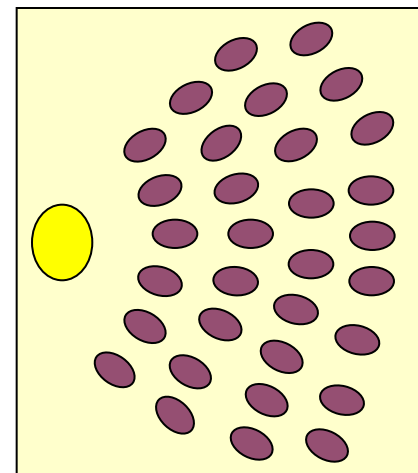
【スクール型】



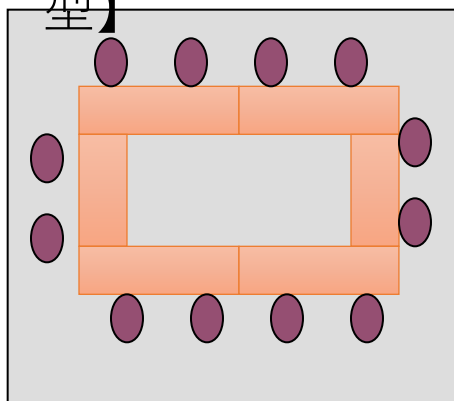
【劇場型】



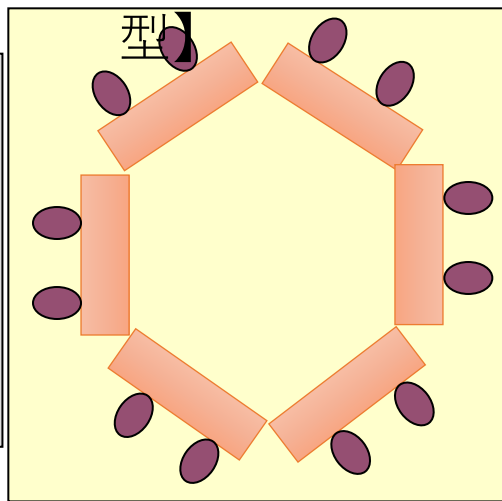
【扇型】



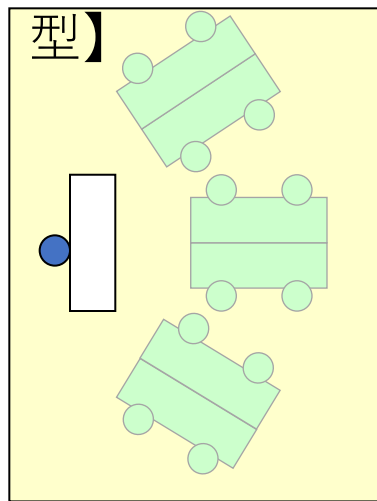
【長方形型】



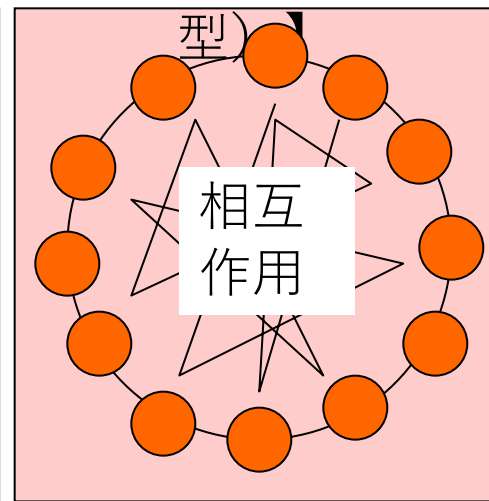
【多角形型】



【アイランド型】



◎【輪（サークル型）】



1 : 場づくり

1-1.空間のデザイン

- 人が集う「カタチ」に敏感になろう
 - 用意された部屋に合わせることに慣れすぎ！ゼロベースで
- イスや机の並べ方だけでなくいぶん違う
 - 机イスの有無、長方形、菱形、中を埋める、半円形
- 今、必要な形は何か、常に考え、提案しよう
 - 居心地よく、相互作用の生まれやすい形は何？
 - アウトプット（成果）重視のビジネス系vs 相互理解（気持ち）重視のハート系、をバランス良く

現代社会。
BEST

Political 政治的
Economic 経済的
Social 社会的
Technological 技術的

「日常の生活」
「暮らし」
「仕事・消費」
「暮らし・文化・実業」
「工業」

「暮らし」が中心になる
「暮らし」が中心になる

「日常生活」に学ぶ。

P 政治的
E 経済的
S 社会的
T 技術的

「暮らし」が中心になる
「暮らし」が中心になる

「日常生活」に学ぶ。

力不足化する 現代社会。

「暮らし」が中心になる
「暮らし」が中心になる

「日常生活」に学ぶ。

講師

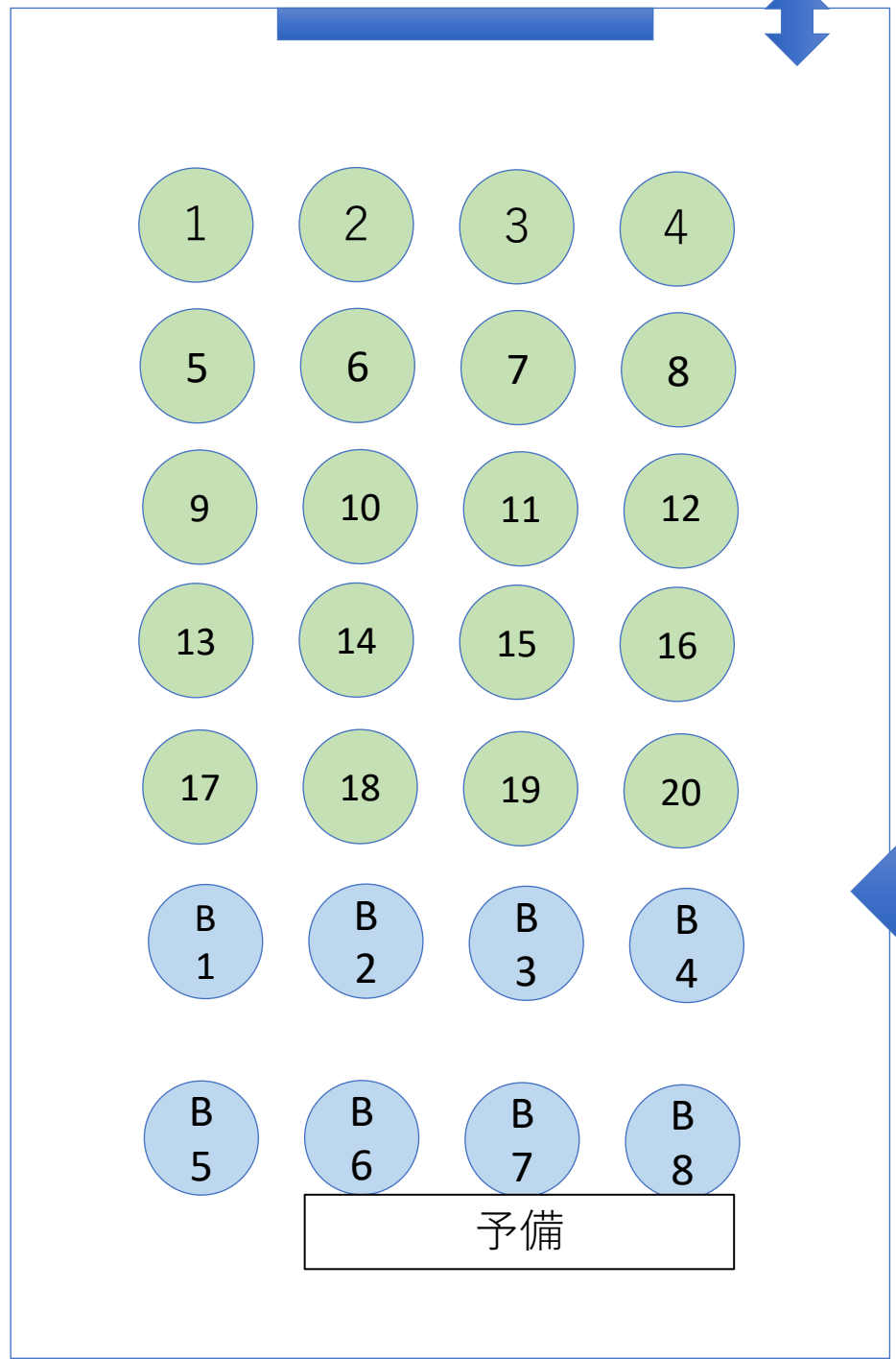




座り方:フィードバックシート右上の番号のグループに着席を4人組のどこでもOK。

白1-20: 前から
B(水色)1-B5:後ろ

25グループ×4人=100人

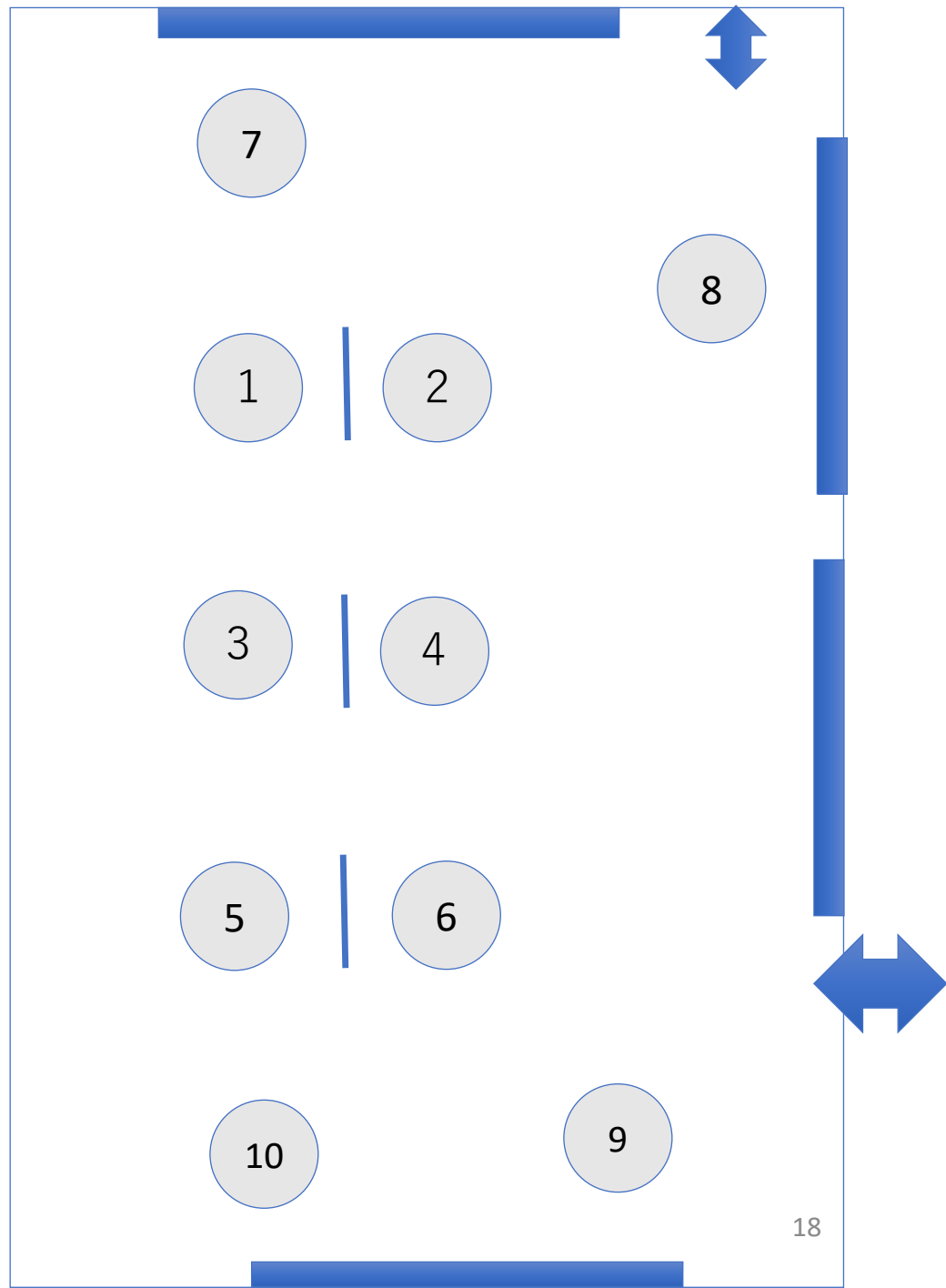


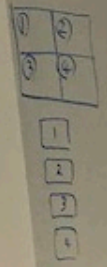
椅子席



座り方: 同じ9人組で。

グループの間は上手にスペースを取るよう調整をお願いします。





$$6 \times 16 = 72$$

1. 1000円 = 1000円

11

1.場づくり

1-2：関係性のデザイン

- 人が集う「場」 = 空間 (物理的) + 関係性 (心理的)
- 「**関係性**」の心理的デザイン
 - 知らない人同士は、初めは緊張して当然。
 - 急に近くの数人で話して！と言われても。
 - お互いの「心理的安全性」を高める工夫を。
- **オリエンテーション** + **導入ワーク** (アイスブレイク) で、受け入れる準備を少しずつ調える。
 - どこ行くの？周りの知らない人、どんな人？
 - 何人で？も重要→2. グループサイズ

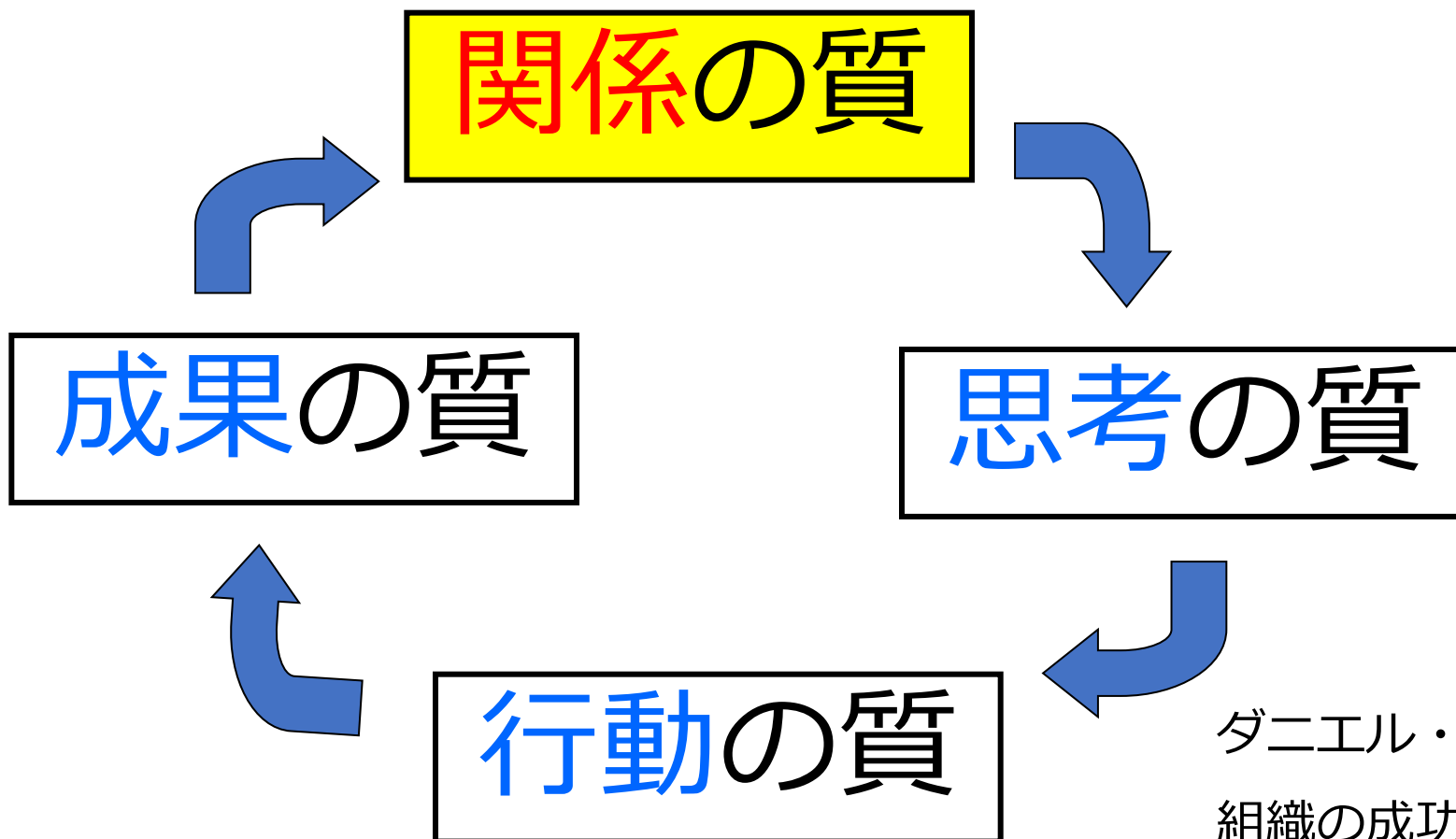
オリエンテーション：方向づけ

- 最初に「土俵」をつくる
 - ここは何する所？どこへ行こうとしてる？ルールは？
- オリエンテーションのOARR by David Sibbet
 - **O**utcome : 成果、どこまで行こうとしているか。ゴール。
 - **A**genda : プログラムの流れ。大まかなスケジュール。
 - **R**ole : そこにいるすべての人の役割
 - **R**ule : 共有すべきグラドルール、参加の心得
 - 『ファシ・革命』 p.69-70、 『ファシ・実践』 p.128

追加：インストラクション 指示の仕方

- ファシリテーターは、皆を動かす重要な役割
 - 指示（インストラクション）が明解でないと、皆が混乱する。
- **「何、なぜ、どう、を明快に！」**
 - 何：何をやるか。ワークの名称があると便利。
 - なぜ：意義、ねらい。今それをやる意味や位置づけ。
 - どう：具体的なやり方。分かりにくかったらモデリング（やってみせる）。
 - できれば口頭だけでなく、パワーポなどで見える化。
 - 質問も必ず受ける。

場づくり②関係性の心理的デザインの意義
「成果」を急ぐより、急がば回れ
「関係の質」を上げる



ダニエル・キム
組織の成功循環
モデル

1. 「場づくり」の基本 <まとめ>

1. **空間**の物理的デザイン：
机やイスの並べ方

2. **関係性**の心理的デザイン

2-①オリエン
テーション
(どこへ行くの?を明確
に)
OARR

2-②導入ワー
ク (アイスブレイク)
(ほっと安心できるよう
に)
チェックイン

ベースにあるのは、「おもてなし」の心 Art of Hosting!

この授業の初回

LAH.H107

コミュニケーション論B

2022年度3Q月・木1/2限 (8:50-10:30)

第1回：オリエンテーション

2022.10.3

リベラルアーツ研究教育院(ILA) 教授

中野民夫

tamio.nakano@me.com

特別参加：高尾隆先生

ティーチングアシスタント (TA)：柳川総太郎

ようこそ「コミュ論B」へ！

- 3年ぶりの対面授業！約75名。
- 学生同士の対話を重視、**双方向・参加型**の**実践的**授業。
 - 立志プロジェクトの少人数クラスの精神を継承。
- **一人ひとりが大事**です。
 - 「自分がいてもいなくても変わらない」授業ではない！
- 皆さん一人ひとりの**積極的な参加と協力**が必要。
 - 少人数グループをたくさん作ります。（準備ボラ募集！）
 - 仲間とたくさん話し合います。一緒に考え、学び合います。
 - 人と話すの苦手？大丈夫、ゆっくり、少しずつ、慣れよう。
- コミュ論Aを取った方、一部重なるけど復習して先へ。

第1回：全体のオリエンテーション 今日のアジェンダ

- 8:50-オリエンテーション、授業の概要
- 9:10-導入ワーク：小グループチェックイン
- 9:30-自己紹介を兼ねて、
「コミュニケーションの様々な形」
 - 最後に、コミュニケーションデザイン
 - 今なぜ対話か
- 10:
- 10:25-フィードバックシート記入

概要とねらい

<シラバスより>

- 簡単な正解のない様々な課題に対して、多様な人々の「協働」や「共創」が求められる時代に、人と人が対面して話し合う生身のコミュニケーション力を高める。
- また、自ら良き話し手や聴き手になるだけでなく、人々が集い話し合う場を創って円滑に進行する「ファシリテーション」の基礎を身につける。
- ねらいは、今後のチームでの研究活動や仕事など、協働・共創の場に不可欠なコミュニケーション力と、参加型の場を創って進行するファシリテーションの基礎を、楽しいワークショップ体験を通じて身につけること。

到達目標

<シラバスより>

- 1) 初対面の人とでも、創造的な対話を楽しむことができる対人コミュニケーションの力。
- 2) 人々が集い楽しく話し合える場を創り、円滑に進行できるファシリテーションの基礎。
- 3) 自分でテーマを設定しオリジナルワークショップを企画し、プログラムをデザインする。

実務経験と講義内容との関連

- 30年広告会社でコミュニケーションによる課題解決の仕事、25年の参加体験型ワークショップをファシリテート（進行促進）してきた。
→問題が複雑化し簡単な正解がない時代に、多様な人々が楽しく協働・共創できる場を作れる人（ファシリテーター）を育むべく奮闘している。
- コミュニケーション論Bでは、
「聴く力」をベースとした対話力、
「伝わる」ための表現力に加えて、
「話しやすい場」を創る実践的なファシリテーション力の基礎を養う = **ファシリテーター養成講座**

授業の進め方

<シラバスより>

- 教員からの一方的な講義ではなく、小グループで受講生が主体となって話し合い、ともに考え創造していく参加体験型のワークショップ形式で行う。
- 前半は、小グループでの自己紹介や対話、ペアでのインタビュー、全員参加のワールドカフェというワークショップなどを経験する。
- 後半は、人が集う場をデザインし進行するファシリテーションについて実践的に学ぶ。
- 最後に、全員が20分のミニワークを企画し、9人程のグループで交代でファシリテートする。体験とフィードバックを通して学び合う。 (何やりたい?)

授業計画前半

詳細は様子を見ながら検討

1. 10/3 オリエン、グループワーク体験
2. 10/6 WS入門：聴くことと話すこと
*10/10休み
3. 10/13 相互インタビュー
4. 10/17 ワールドカフェ：全員参加の対話
5. 10/20 ファシリテーション(F)入門
6. 10/24 F基礎スキル①：場づくり
7. 10/27 F基礎スキル②：グループサイズ、問い
*10/31、11/3休み

授業計画後半

詳細は様子を見ながら検討

8. 11/7 スキル③：見える化・プログラムデザイン
9. 11/10 自分が創りファシリテートしたい場
10. 11/14 ファシリテーター実習に向けて準備
11. 11/17 ファシリテーター実習①
12. 11/21 ファシリテーター実習②
13. 11/24 ファシリテーター実習③
- 14/ 11/28 全体ふりかえり：最終レポートを元に

時間外・教科書・成績など

- 授業時間外学修（予習・復習等）：「毎授業」授業内容に関する予習と復習（課題含む）をそれぞれ概ね100分を目安に行うこと。→**軽めにします。**
- 参考書：『学び合う場のつくり方』（中野民夫著、岩波書店）
- 成績評価：授業への参加度（毎回の宿題と積極的なフル参加）：**70%**、最終課題とレポート：**30%**
- 履修条件：積極的な参加。**遅刻**はグループワークの妨げになるので**認めない**。**朝早くて大変だけど。**

まとめると（参加の心得）

- 皆で創る参加型の場 = 対話を重視し学び合う
- コミュニケーション = 関係を紡ぐ
- 自分自身も他者も大事に
- 遅刻注意！

参加型なら話ばかりでなく
さっそく対話のワークを

では、さっそく導入ワーク

A4紙と水性カラーマーカー

導入ワーク①：チェックイン

- 「どんな人がどんな思いでここにいるの？」
 - 会の初めに全員が一言ずつ話して共有すること。
 - くじで4人組。何かのご縁。関心を向け聴き合おう。
- A4紙を四つ折り
 - 自己紹介シート作り（今後も持ち歩いて）
- お題（問い）に対するキーワードを大きく書く
 - 次頁の項目のまず1）と2）について大きく書いて。

1) どの誰
所属、名前（出身、
サークルなど）

2) 好きなこと・
この夏の思い出

**基本情報、話しやすいことから。
共通点があると話は弾む。**

話す順番、お題、時間をしっかり確認
適当／乱暴な無茶振りはしない。

導入ワーク①：チェックイン

- 話す順番は、中野から一番遠い人から時計回り。
- 一人ずつシートを見せながら。
 - 時間：1) と2) 合わせて、一人1分、計4分少々
 - 時間余ったら自由に質問しあおう。
- モデリングやってみる？

全体に戻り一段落して、

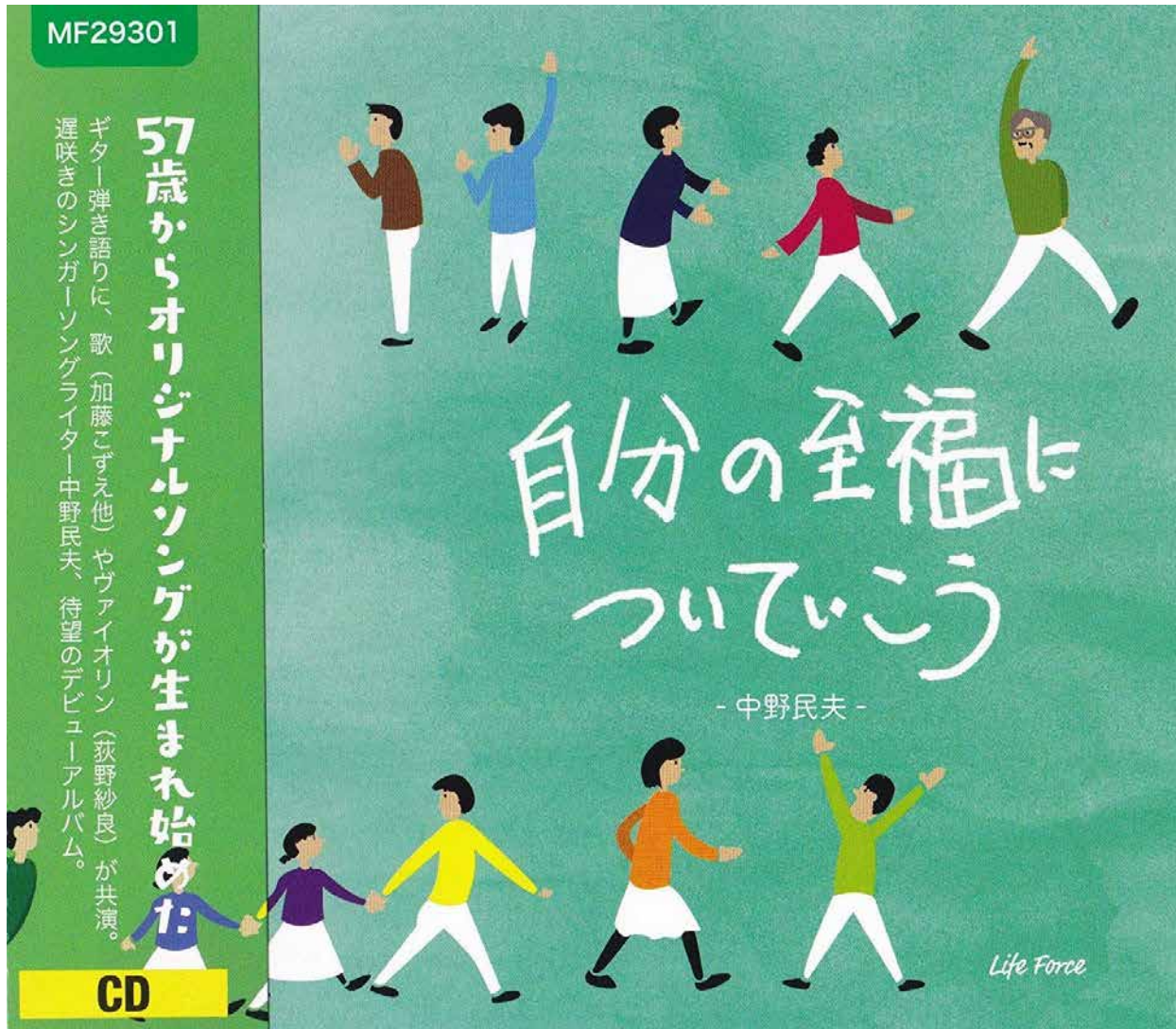
いかがでしたか？

ここらで一曲

ちょっと息抜き+メッセージ

CD「自分の至福についていこう」

オリジナルソング14曲収録



Amazonで
買えます！

美しく生きるヒント

2018.2.11@本然庵

1.
きっとどこかで、もうずっと知ってたはずなのに
つい反対のことばかり、やってきて疲れたよ
人と比べて競い合って勝ったの負けたのと
頑張らなきゃダメ、速くたくさんやらなきゃと

*
**内側から、美しく強く生きるには
比べない、頑張らない、ゆっくり丁寧に
内側から、美しく楽に生きるヒント
比べない、頑張らない、ゆっくり丁寧に**

2.
比べてしまうと、周りの人みんなすごく思え
うらやんだり自分なんかダメだと落ち込んだり
でも人には、人それぞれ苦節の歴史あり
私は私だけしか書けない、物語つづろう

3.
もっと頑張れ、努力すれば報われるはずと
でも無理してると結局、長くは続かない
楽しいこと、心地良いこと自然に続く
好きこそものの上手なれって昔から言うよね

4.
速く速く、できる奴は仕事速いよと
目一杯走ってきたけれど、心にすきま風
今この、ひとつひとつに気持ちを込めて
ゆっくり丁寧に心ある道歩いていこう

*
**内側から、美しく強く生きるには
比べない、頑張らない、ゆっくり丁寧に
内側から、美しく楽に生きるヒント
比べない、頑張らない、ゆっくり丁寧に**

導入ワーク②

- いかがでしたか？
- さらに、もう少しお互いに知り合おう。
- 3) と4) について話しあうので、先に記入を。
 - **3) どうよ今の歌？（比べない、頑張らない、ゆっくり丁寧に）**
 - **4) 今の時点での「志（やりたいこと・夢）」**
- 先の順番で。今度は一人2分。右上の時間表示を見て。
 - 短すぎるのもダメ。本人が詰まったら質問を。
 - 計10分。余った時間は互いに興味を持って、質問し合い、自由に深めあおう。

3) どうよ今の
歌? (比べない、
頑張らない、ゆっ
くり丁寧に)

4) 今の時点での
「志」 (やりたい
こと、夢)

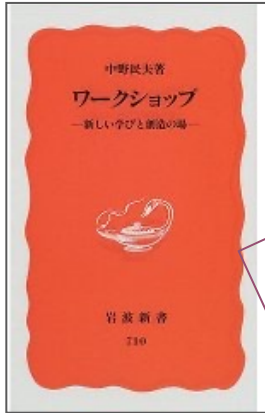
全体で、少しふりかえり

- ブレイクアウトルーム、どんな雰囲気、印象でしたか？どんな気づきや発見がありましたか？
- 少人数での対話と、全体でのわかちあい（学びの共有）を、行き来したく。
- どなたかミュートを解除し、話して！

中野民夫プロフィール

- **東京工業大学** リベラルアーツ研究教育院、
環境社会理工学院社会・人間科学コース 教授
 - コミュニケーション論、参加型の場づくり（ワークショップ・ファシリテーション）、マインドフルネス
- **博報堂に30年(1982～2012)**
 - 企業の社会貢献、愛知万博「地球市民村」、環境等社会テーマ系
 - 2012年に同志社大学教授に
- **ワークショップ企画プロデューサー**
 - 90年前後に米留学、組織開発・変革学修士
 - 市民活動、NPO/NGO、企業、行政、まちづくり、研修、学校教育等
- **遅咲きのシンガーソングライター**
- **屋久島「本然庵」主宰**
- 日本環境教育フォーラム(JEEF)理事、日本ファシリテーション協会フェロー、Be-Nature Schoolファシリテーション講座監修

主な著作



18刷!

ワークショップ
新しい学びと創造の場
(岩波新書、2001)



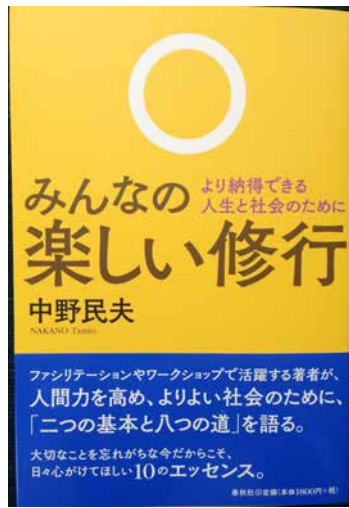
9刷!

ファシリテーション革命
参加型の場づくりの技法
(岩波アクティブ新書、2003)
*現在、電子出版のみ



8刷!

ファシリテーション
実践から学ぶスキルとところ
(共著、岩波書店、2009)



みんなの楽しい修行
より納得できる人生と社会のために
(春秋社、2014)



スピリチュアリティと教育
(共著、ビイング・ネット・プレス、2015)



2刷!

ファシリテーションで大学が変わる
(共編著、ナカニシヤ、2016)⁴⁷



6刷!



えんたくん革命

1枚のダンボールがファシリテーションと対話と世界を変える
(川嶋直と共著、みくに出版2018)

What one learns at university

僕は大学時代、
何よりも旅から学んだ。

中野民夫



新・大学で何を学ぶか

(上田紀行編著、岩波ジュニア新書、2020)

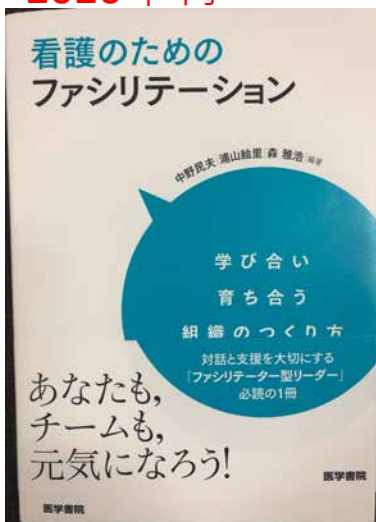
* 東工大リベラルアーツ研究
教育院の13人の先生たちの共
著

*「僕は大学時代、何よりも旅
から学んだ」(中野)

学び合う場の作り方

一本物の学びへのファシリテーション
(岩波書店2017) コミB教科書

2020年刊

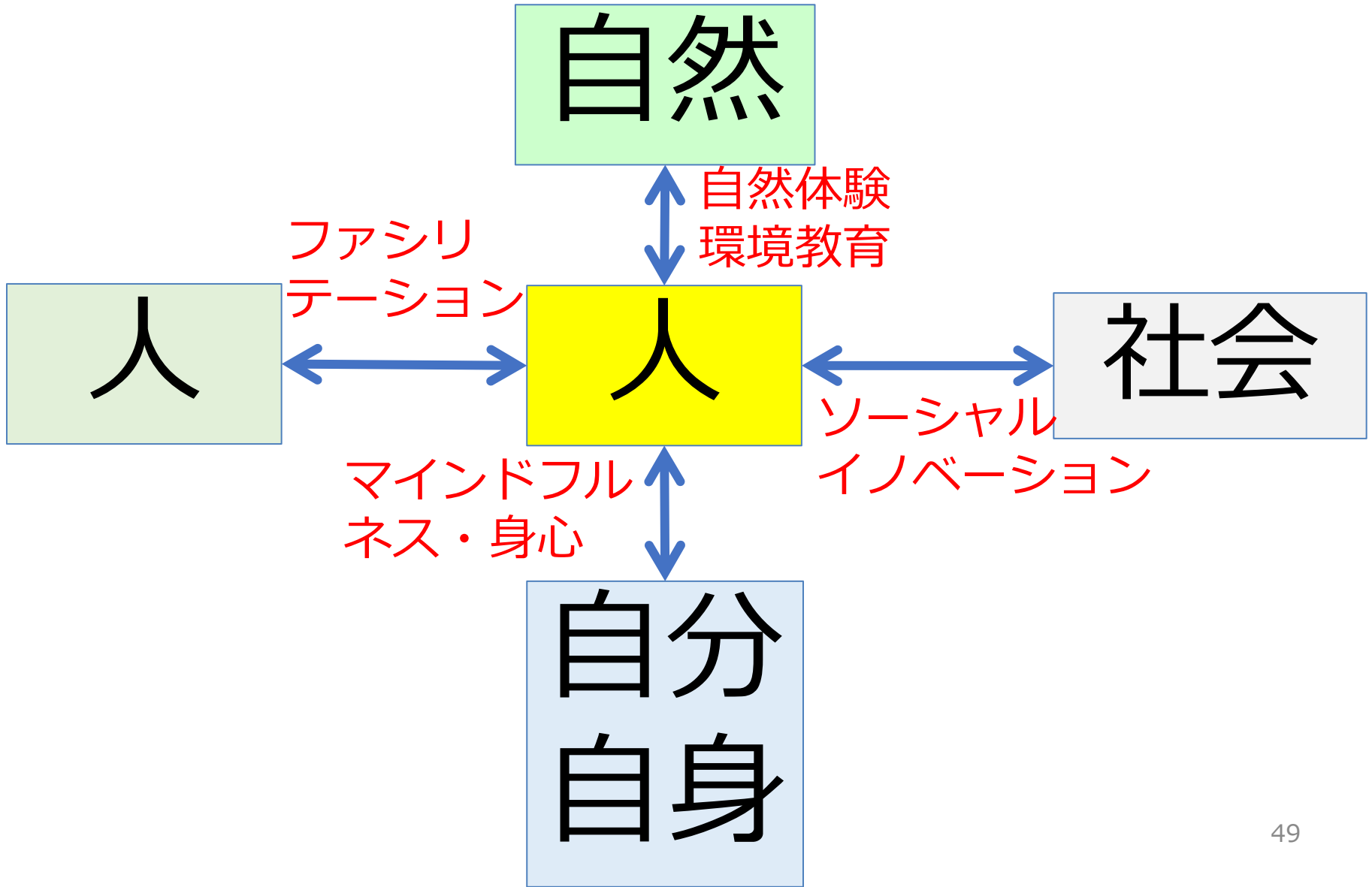


看護のためのファシリテーション

学び合い育ち合う組織の
作り方
(中野民夫・浦山絵里・森雅浩
著、医学書院、2020)



人と人・自然・自分自身、社会を「つなぎ直す」仕事
the work that re-connect



「自分の至福についていこう」 = 若い人たちへのメッセージ

- “Follow your bliss!” by Joseph Campbell
 - 「自分の至福を追求しなさい」
 - 「自分の至福、気になることについていこう！」
 - 自動詞の連鎖によるやさしい革命
- 若者よ、旅せよ、恋せよ、大志を抱け！
 - 「余計なことしないで何の人生か？」
 - 試練・失敗こそ、いつかきらめく宝物

ようやく本題に入る。問いかけから

コミュニケーションって？

- コミュニケーションって何？
- と言われて、思い浮かぶことは？
- に書いてみて。

「コミュニケーション」って何？

- 情報の伝達？（知的）
- 意志の疎通？（意志）
- 気持ちが通うこと？（感情）
- 互いに理解し合うこと？双方向？
- 言葉だけ？
- 映像は？歌や音楽は？
- イベントは？
- プレゼントは？
 - たくさんの切り口がある。

コミュニケーションは「意味」と「感情」のやりとり（斎藤孝）

例えば、気持ちを伝えてるのに、「結論はなんだ」

コミュニケーションには 多様な形がある

東工大での実践をもとに。



「コミュニケーションのデザイン」
について考えていくために

1. 「場づくり」の基本 <まとめ>

1. **空間**の物理的デザイン：
机やイスの並べ方

2. **関係性**の心理的デザイン

2-①オリエン
テーション
(どこへ行くの?を明確
に)
OARR

2-②導入ワー
ク (アイスブレイク)
(ほっと安心できるよう
に)
チェックイン

ベースにあるのは、「おもてなし」の心 Art of Hosting!

ふりかえり

- ここまでの話で、「なるほど〜」「そうだよね〜」と思ったことは？

2の技：グループサイズ 小グループの活用

- 一度に皆では話せない
 - 他者がどう出るか気にし、発言を控える文化。
 - 一人ずつ順に当てたら長々話す。時間足りない！
- さっとグループのサイズ（人数）を分ける
 - ペア（2人）で、3人で、4人で、
 - グループ数の「番号！」を掛け「偶然の出会い」を演出
- 様々なサイズの特長を知り自由自在に繰り出す
 - まず2人ペア→4人→8人→全体等。時には一人も大事。
 - 時々、全体で、グループ発表や個人シェア

この授業での工夫

- 対面で全体64名（昨年Zoomで158名）
- 4人組を基本に。
 - 4人、レストランのテーブルの基本。こたつ、麻雀、昔の急行列車、など親密で話が弾みやすいサイズ。多様性があり、聞いているだけの時間も取れる。
 - 3人も「三人寄れば文殊の知恵」でなかなか良い。
 - 5人はちょっと多い？
- ペア（2人組）でインタビューも。
- 2人→4人→8人→12の中グループ
- 小グループの後に全体
- たまには1人で考える時間も

何人が話しやすかった？

状況、お題、時間にもよりますが。

- 2人：逃げ場がない。下手すれば窮屈、上手くいけば親密。対話の基礎。人間関係の基礎（関係の両義性：喜びも苦しみも）
- 3人：3人よれば文殊の知恵。2人より多様性が出て創発が始まる。皆が話せる。
- 4人：ペア×2、レストランのテーブルの基本。電車、麻雀、こたつ。皆が意識されケアし合える。黙ってる自由も。
- 5人：話す人と話さない人の差が出てくる。活発な2-3人と静かな1-2人等。対面の場では物理的な距離が少し離れる。
- それ以上：なかなか一度に話すのは大変。順番に話すと時間がかかる。司会者・ファシリテーターが必要になる。
- 1人：たまには一人で考えたり、書いたりも大事。

3の技：問い

共通で触発的、身近・具体・裁かれない問いから

- 「問い」（お題）がいのち
- 共通で触発的な問いを
 - 皆に共通の関心事は何か？
- 身近で具体的、個人的な体験から
 - 頭や建前の「べき論」でなく、具体・実感から
 - 「自分の体験」から：「そもそものきっかけは」
「個人的体験は」
- （頭ごなしに）批判されるのはイヤ！
 - 正誤・善悪など裁かれる怖れのない問いから始める
 - 次第に、本質的、抽象的にテーマに肉迫していく

これまでの事例から

- 自己紹介（チェックイン）
 - ブレスト
 - 聴くことと話すこと
 - 相互インタビュー
 - ワールドカフェ
 - まとめのワーク
-
- それなりに、苦勞して考えております。

1) どの誰
所属、名前（出身、
サークルなど）

2) 好きなこと・
この夏の思い出

基本情報、話しやすいことから。共通点があると話は弾む。

直近の歌から。そして大事な志へ

3) どうよ今の歌？ (比べない、頑張らない、ゆっくり丁寧に)

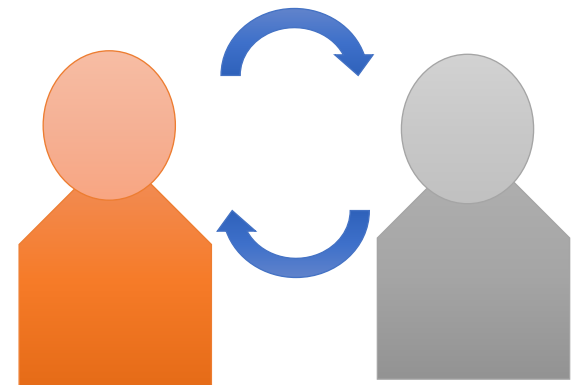
4) 今の時点での「志」 (やりたいこと、夢)

ブレーストーミング
ウォーミングアップの問い：
「秋、たとえば、思うこと・
思い出すこと」

本番の問い：
「幸せだなあ、と感じるのは、
どんな時？」

相互インタビュー

- 2人組で、交代に聴きあいます。
 - 問い（基本案）は後述。
- 一人10分ずつ、交代して、合計20分
- インタビュー記事にして他の人に紹介しますので、**メモ**をとってください。
 - ただ下ばかり見ないように。
 - 姿勢、表情、うなずきなど



問い (基本質問案。話しやすいようにアレンジを)

- 0) まずはお互いにご挨拶。名前と所属など確認。
 - 「これから〇〇さんのこれまでのことやこれからについてお話を伺いたいと思います。どうぞよろしく」と挨拶。
- 1) 小さかった頃、どんな子ども時代を過ごしていましたか？好きだった場所、遊び、人など教えてください。
- 2) 東工大と今の学院を志望し始めたのは、いつ頃のどんなきっかけや思いからでしたか？
- 3) コロナで特殊な大学生活、どんな気持ちで過ごしてきましたか？困ったことや、意外に良かったことは？
- 4) これから、学生生活や人生を通して、実現したい夢や「志」というと、どんなことですか？

3ラウンド 行います

第1ラウンド

自己紹介
対話・メモ

約20分

ホスト一人残り
組替え

第2ラウンド

(自己紹介)
(前の対話の共有)

新たな対話・メモ

約20分

ホスト一人残り
組替え

約20分

第3ラウンド

(自己紹介)
(前の対話の共有)
新たな対話・メモ

最後に個人で書く

ハーベスト(収穫)

全体で発見・気づき
をわかちあう

今日は3つのお題で

ご提案もありがとう。

結論や正解はない。多様な意見を率直に交換し、新たな発見・創造へ！

• 人とコミュニケーションすることの魅力と難しさ

- 「友達って、どうやって見つけた？」
- 人と付き合うのは楽しくもあり難しくもある。人間関係の両義性
- 自分の体験から、とてもうまくいった時のこと、あるいは厄介になってしまったことを、具体的に思い出しシェアするところから。

• 「食生活」について

- 健康な食事してる？食事によって体に変化は？特に一人暮らしどうしてる？食生活整えるのに足りない環境や要素は？
- 日々食べるものが私を作っている。どう意識してる？実状は？

• もし〇年しか生きられないとしたら

- 不治の病で、例えば3年しか生きられないとしたらどうする？それが10年なら、あるいは1年、3ヶ月、1週間、1日だとしたら。
- いつかその日は来ます。生きてる間にやりたいことは？
- 「将来、安定をとるか、チャレンジをとるか」にもつながる

ファシリテーション3大基礎スキル まとめ

場 ととのえ、
グループ 分けて、
問う て待て。
相互作用の
花が開くから

4の技：見える化 言葉を見える形に定着させる

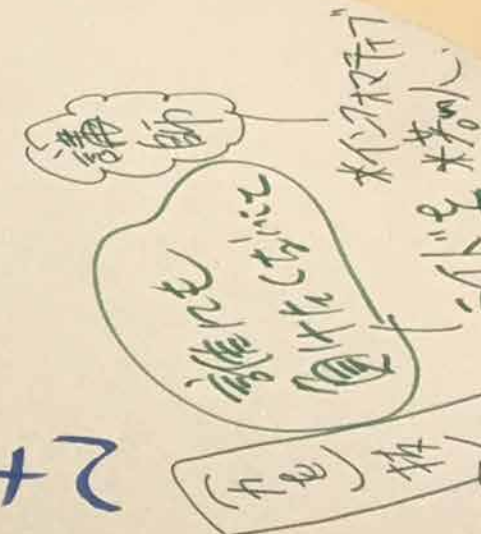
- **せっかくの言葉、アイデアを霧散させない**
 - その場の議論や対話を活性化するために書き出す
 - 記録のための書記のメモとは違う
 - 板書、ライブコーディング、ファシリテーショングラフィック
 - 本人の言葉を使う。勝手に要約しない。皆でやるのもgood！
- **様々な道具に習熟し活用しよう**
 - クリップボードにA4紙とカラーマーカー、KP法（紙芝居プレゼン）
 - ポストイット、模造紙、ホワイトボード、えんたくんと用紙
 - キーワードもいいが、単語でなく「短文」で明解に。
- **さらにできれば広い視点から整理し、構造化を**
 - 大目的、ゴールを忘れず、常に何のための作業？

マーカーでキーワードを「見える化」しよう。誰が書いてもOK

高橋 謙一
12月22日

講師

相模原市立
相模原市立



若人

さがる

改善に向けて

自分の目
を刺さる
目覚めさせ
ようか?

講師
のラインナップ

やる気がない学生
をどう目覚めさせるか?

プライド

を刺激

— 向上心

マインドセット
を強化
コンテ

誰にも負けたらいい
プライドを刺さる
他人の

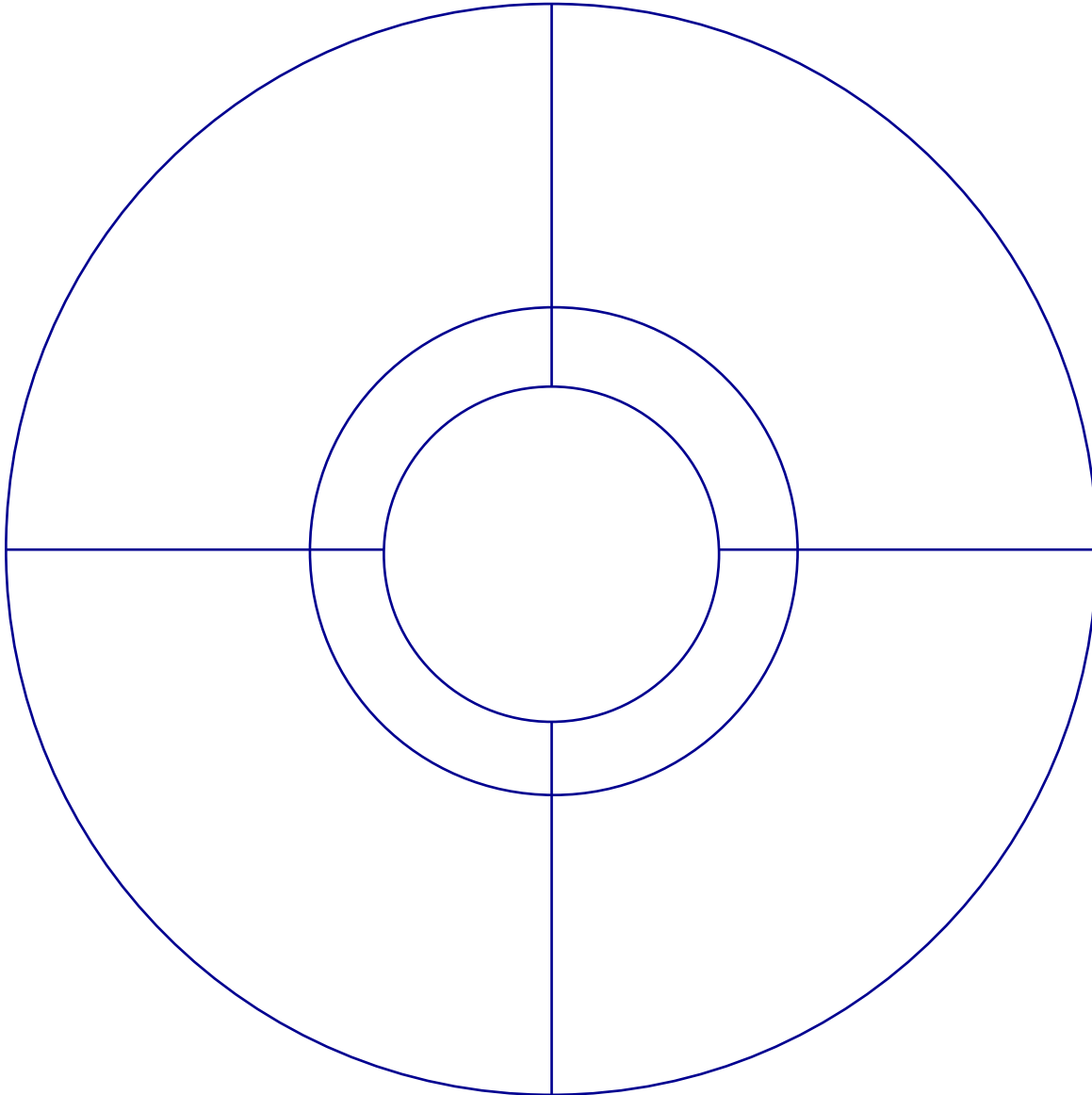
5の技：流れのあるプログラム・デザイン

人の身体と心の自然をふまえた起承転結

- 生理的・心理的な自然に沿い、起承転結の流れを
 - 一人だけ、知らない場に来たら、最初は不安でしょ？
 - それぞれの生活や仕事のリズムを引きずってきている。
- 「関係の質」が成果をもたらす。急がば回れ
 - 関係の質→思考の質→行動の質→成果の質
- 初めが肝心、導入が大切
 - 場づくりと連動、おもてなし。一緒に場をつくるのも良い。
 - オリエンテーションのOARR
 - 目的・ゴール、大まかな流れ・プログラム、役割、参加の心得
 - 身体を動かす、音楽など

氏名：
学籍番号：

タイトル：



基本は四人組で、えんたくんを囲み、書きながら話し合う。

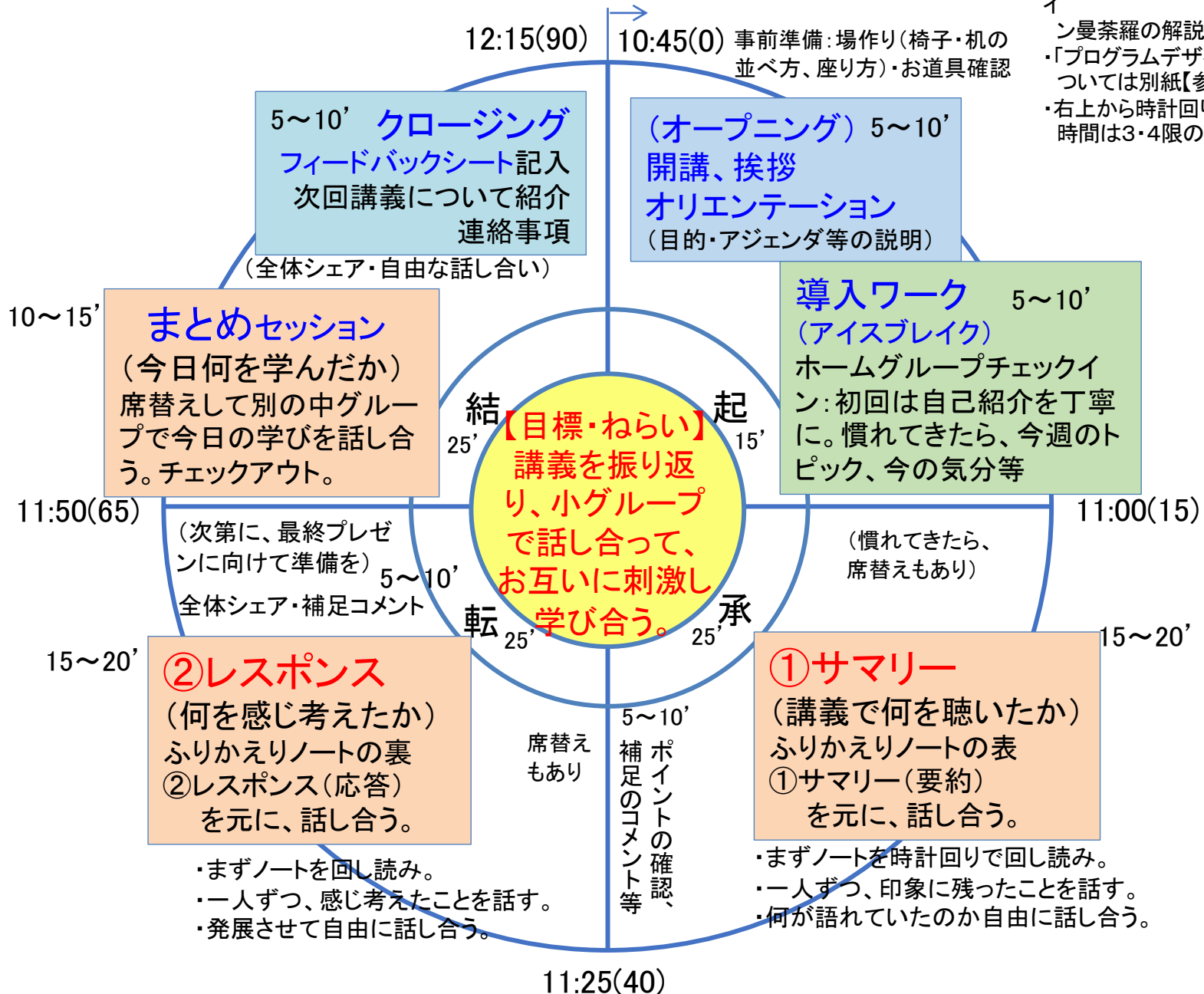


東工大立志プロジェクト「少人数クラス」基本進行案

プログラムデザイン曼荼羅

2016.2.22 中野民夫

- ・詳細は、別紙「プログラムデザイン曼荼羅の解説」参照。
- ・「プログラムデザイン曼荼羅」については別紙【参考】基本参照。
- ・右上から時計回りにご覧下さい。時間は3・4限の場合の例。



ふりかえり 2

- ~~お隣と6人組で~~
- 今日の話で、印象的だったこと・今後自分でも意識して使おうと思ったことは？
- 次回は、自分が本当にやりたいこと、を探るワーク。それをもとに最終20分ワークを企画してほしい。

googleフォーム:イードバックシート記入 授業をふりかえって、気づき・発見、学び・提案 今日中に(出席確認兼ねる)

- 今日はGoogleフォームで。
- <https://docs.google.com/forms/d/13eRhisweIv9uIfPCvml8yihTQ2eWSS-V7aDWkHdd6Zw/edit>

＜注意！＞

- 万一、授業にフル参加してなかったのに書いて提出するのは不正行為。
- 東工大ルールで当Qの全ての授業の単位が取り消されますので注意して。

A screenshot of a Google Form titled "22コミュニケーション論Bフィードバックシート" (22 Communication Theory B Feedback Sheet). The form includes a subtitle "今日の気づき・発見、学びを書いてください" (Please write about today's insights, discoveries, and learning). It features three text input fields: "学籍番号" (Student ID), "氏名" (Name), and "気づき・発見、学び" (Insights, discoveries, learning). The "気づき・発見、学び" field is marked as required. A "保存" (Save) button is visible at the bottom right of the form.